

学校 教育 目標	ふるさとを愛し、豊かな心を育み、 自ら学び挑戦する子の育成	昨年度 の 評価 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT活用は大切だが、自分の言葉で表現することも大切、自分の言葉で表現する子の育成をすべき。タブレットの使用状況についても確認を。</li> <li>○あいさつなどの指導は、根気強く続けることが大事。</li> <li>○大人の目の届かないところは、子どもたち同士の中で呼び捨てやひどい言葉遣いになっていることがある。</li> <li>○不登校は全国的にも増えている。今後も、一人ひとりを見て対応をすべき。</li> <li>○食べること・食べ物に対する大切さ、思いやりなどを育成する食育指導を。</li> <li>○地域の力を学校へ向ける取組にしていけないといけない。</li> <li>○小中連携して系統立てた学習内容・学習ルールを確立していくことが大事。</li> </ul>	中期的 目標	<p>&lt;中期的目標 (R5～R6)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。</li> <li>○成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり</li> <li>○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫</li> <li>○体験的学習、地域学習のさらなる推進</li> </ul>
----------------	----------------------------------	----------------------	--	-----------	--

評価項目 (指導力点)	指標：到達目標 (成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
(かんがえ) 学びの楽しさを 知り、自ら学びに 向かう子の育成	「勉強の内容がよくわかる」児童の評価90%以上。「授業中、自分の考えをよく発表している」児童の評価70%以上。	「国語や算数の授業がよくわかる」の児童評価は92%で目標達成。対して「授業で自分の意見をよく発表している」の児童評価は62%で目標にしていた70%を下回った。	B	引き続き「わかる授業」に向けての授業改善に取り組み。特に、子どもの考え・意見をつなぐ授業研究を進め、児童が積極的に発表する土壌を築る。  教師だけでなく、児童にとってもタブレットが有用であることを実感できる効果的な活用について、実践と研究を進める。  次年度には道徳教育の研究指定を受けるので、グループでの交流や話し合いとともに、「読み解く力」を意識した授業づくりについても徹底的に共通理解を図り、実践に挑む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生との熟議の際には、6年生が発表でタブレットを活用するなどICT活用が進んでいることを改めて実感した。数年前と比べてタブレットを使った授業が円滑であると思う。</li> <li>・タブレットを活用した発表力を維持したまま、さらに自分の言葉で発表できるプレゼンテーション力を育むように、先生方には授業を工夫してほしい。また、活字より親しむ取組を進めてほしい。</li> <li>・今年度から配置された高学年算数専科の効果も評価できるとよいと思う。</li> </ul>
	「ICTを効果的に活用した授業に取り組んでいる」教員の割合100%。	「タブレットなどICT機器を活用して必要な情報を探したり発表したりできるように指導しましたか。」の教員の割合は92%であった。担任や授業を担当している教員に限ると100%なので、ほぼ目標を達成できたと言える。	A		
	「読み解く力」を意識した授業づくりに努め、グループ学習を効果的に実施し、交流を深める授業を仕組む。	「『読み解く力』の視点を意識した授業に努められましたか。」の教員の割合は77%であった。グループ学習を積極的に取り組み、子どもたちの意見をつなぐ交流を意識した授業は多かったが、「読み解く力」の視点は到達しなかったようだ。	B		
(おもいやり) 自他を愛する 豊かな心の育成	「学校へ来るのが楽しい」の児童評価及び保護者評価ともに85%以上。	「学校へ来るのが楽しい」の児童評価は88%。「お子さんは、楽しく学校に通っている。」の保護者評価92%で、児童は昨年比-2%、保護者は昨年比-1%で、両者とも昨年をやや下回ったが、ほぼ同様の結果と言える。	A	組織的に安心・安全な学校・集団づくりをめざした取組を進める。加えて一人ひとりの心に寄りそった丁寧な指導を継続する。  「安心ルール」「ありがとうの木」の人権の取組は、児童が生活や自分自身を振り返るよい機会となっている。今後も、継続して定期的に取り組む。  組織的にいじめ未然防止を心がけ、早期発見・早期解決に全力で取り組む。ささいと思われることも積極的にいじめ認知し、保護者との連絡を密にしながらいじめが解消するまで見守り等も続ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校対応について、児童個々のニーズに応じた取組を進めていて先生方の努力を感じる。</li> <li>・落ち着いた校内の雰囲気からも、児童の先生方に対する信頼がアンケートの結果に表れているようだ。</li> <li>・人権に関する知識は育まれているが、意味も分からず人を傷つける言葉(ネットの影響があるかもしれない)が使われている時があるのが気になる。</li> <li>・いじめについては現状に満足せず、いつも敏感であってほしい。</li> </ul>
	「児童が人権を尊重し、温かい人間関係を育成するよう努めましたか」の教員の割合80%以上。	「児童が人権を尊重し、温かい人間関係を育成するよう努めましたか。」の教員の割合は100%で、児童の「友だちのことを考えて行動している」の評価96%にもつながったと考える。	A		
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価80%以上。	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価は61%(前年比+1%)で、前年とほぼ同様に結果であった。わからないも32%(前年比+2%)で同様であった。児童の「先生は、いじめやいやがらせがあったときは解決してくれる。」の評価96%とは乖離している。	B		
(たくましい) 体力や気力、 生きる力の育成	「外で遊んだり、進んで運動したりしている」の児童評価80%以上。	「外で遊んだり、すすんで運動したりしている。」の児童評価は83%で、目標は達成できた。	A	児童会で外遊びをめてにしたことも一定の効果をもたらしたので、引き続き教員からだけでなく児童からも発信する。  PTA研修や学年のびびきあい活動などの機会に、ゲームやスマホの使い方も含めた規則正しい生活リズムの大切さについて、親子で学ぶ機会をもつ。  全校で割り遊び、秋祭り等、異学年が交流する場を今後も引き続き設定するとともに、掃除リーダーの取組も継続する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺にいと、児童たちが運動場で遊んでいる声が聞こえてくるので、元気よく体を動かしていることがうかがえる。</li> <li>・学校にいるときは外で遊びたい児童が多いと思うが、生活リズムの保護者評価が低いのは、児童の遊びが外ではなくゲームやスマホ等に変化しているからではないかと思われる。</li> <li>・たてわり活動は、リーダー養成はもとより、どの学年でも他者の話に素直に耳を傾けるなどの効果が期待できるので継続して取り組んでほしい。</li> </ul>
	「早寝・早起き・朝ごはん」のリズムができてきている児童評価及び保護者評価ともに80%以上。	児童の「早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができてきている。」の評価は80%で、保護者の「お子さんは、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができてきている。」は77%で、保護者評価がわずかに目標に達しなかった。	B		
	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」児童の割合80%以上。	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」の児童評価は87%(前年比-1%)で、ほぼ昨年同様の結果となった。6年生の掃除リーダーの取組や児童会の秋祭りやたてわり遊びの取組がよい結果をもたらしていると考えられる。	A		
地域とともにある 学校	学校・地域連携カリキュラムを見直し、はなまる広場や自治協との連携を回った実践を行う。	「学校地域連携カリキュラムが地域との連携・児童の主体的な学びにつながりましたか。」の教員の割合は77%で評価が高いとは言えない。はなまる広場や自治協とは連携して取り組むことができていたが、児童主体の取組までには高まらなかった。	A	はなまる広場や自治協とともに進める教育活動は継続している。地域連携の根拠となる学校地域連携カリキュラムを学校内外に積極的に発信していく。  学校運営協議会では、引き続き学力向上・生徒指導等についても話題提供し、学校の課題を共有する。教職員との熟議や、児童の意見表明の場も設定し、協働で学校を運営していく機会をいっそう高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が学校に足を運び、児童とふれあう機会が多く、まさに「地域とともにある学校」になっている。</li> <li>・学校運営協議会の機会に、教職員とテーマに沿って熟議をしたり、6年生の意見表明の場に参加したりするなど、校内での学校運営協議会の認知が広まったと思う。</li> <li>・地域連携は始まったばかりで、教職員の意識も地域の行動もこれからだと思う。</li> </ul>
	学校運営協議会の熟議を経た意見をもとに、全委員が執行者として学校運営にかかわりを持つようとする。	学校運営協議会では、教職員「教員の働き方改革と地域連携」をテーマに熟議したり、6年生児童と意見交換の場を持った。教職員とは学校行事を中心に活発に議論した。今後の学校行事に反映することになった。また、6年生との意見交換は、6年生の意見表明の場としてもよい機会となった。	A		
小中一貫教育の推進	小中一貫教育標準カリキュラムを活かした授業づくりについて、中学校区教職員全員で取組を進める。	小中一貫教育の日は、今津中学校区的全教職員が一堂に会しテーマ別に議論したり、研究を進めたりすることができた。また、小学校児童や中学校生徒の学習の様子などもお互いに参観することができた。	A	小中教員による共同授業研究を実施し、中学校へのつながり意識した指導内容を確認する。また、学習規律も中学校区で統一した上で授業改善を図る。  今後も、今津北小児童・今津陸上部と合同で小中連携しての陸上記録会練習や部活動体験、琵琶湖清掃活動や環境保全活動等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの数が減る中で、広域での学校連携は有効であると思う。</li> <li>・人事異動により転入してきた教職員が戸惑うことのないよう、無理のない取組にしてほしい。「働き方改革」に逆行しないことも大事である。</li> </ul>
	学校・地域連携カリキュラムの実践の中で小中学校の児童生徒の交流の促進を図る。	小から中への滑らかな接続のために、方法や時期を工夫して、陸上記録会練習、中学校での部活動体験や「ようこそ先輩事業」を行った。また、学校地域連携カリキュラムにある小中合同の環境保全の取組も行うことができた。	A		

学校関係者評価	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として良い評価であると思う。教育の評価は難しいし、日々変化する現状に対応する困難さもある中でB以上の評価ばかりなのは素晴らしい。</li> <li>・先生方の授業研究・改善の成果が、児童の意欲ある学びの姿に表れてきている。</li> <li>・基礎学力のさらなる定着に向けて、学年の発達段階に合わせた学習規律や自学・読書の推進など細部からのアプローチが図れることよい。</li> <li>・学級、学年、児童会など、いくつかの単位を踏んだ人権の取組が少しずつ積み上げとなり、心の育ちに生かされている。日常の学校生活の場でも、友達に思いやりのある言葉かけや気持ちのよいあいさつができるよう根気よく指導を続けていたきたい。</li> <li>・地域よさの伝達、学力生活力向上の支援等にたくさんのボランティアの方々関わっているが、長く関わってもらうためにも未発掘の部分に切り込む動きが必要と感じる。</li> <li>・教職員や児童との熟議は、学運協委員としてもよい機会となった。今後も継続してほしい。</li> </ul>		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの効果的な活用については今後も研究を深め、児童には学習用具の一つのツールとして授業や家庭学習で積極的に使わせたい。但し、使うことを目的化せずに、学習によっては従来通り手で書かせる機会も大切にす。</li> <li>・学校図書館を活用し、読書活動の充実を図り活字に親しむ機会を増やす。</li> <li>・自由進度学習等児童主体の学びの姿を検証しながら、高学年算数専科の効果も評価する機会を持つ。</li> <li>・いじめ等生徒指導事案については今まで通り生徒指導主任を中心に組織的に対応し、特にいじめについては早期発見と迅速な初期対応を心がける。このような学校の取組について、保護者や地域へも参観時等の機会を利用したり、HPやおたより等でお知らせしたりして周知する。</li> <li>・良い生活リズムの習慣化、ゲームやスマホ等の使用制限、外遊びや運動の推奨について、保護者にもPTAと連携して研修の機会を持つ。</li> <li>・はなまる広場の人材拡充、自治協との協働活動など、地域との連携強化をさらに進める。</li> <li>・中学校区での道徳教育の研究発表に向けて、北小や中学校とともに研究を推進する。学習規律や授業の進め方等についても2校と連携しながら進める。</li> <li>・学運協と教職員との熟議や、児童との話し合い(≠児童の意見表明の場)は継続して設定する。</li> </ul>